

弘前市の概要

1. 弘前市の概況

(1) 位置・地勢

弘前市は、平成18年2月27日に旧弘前市、旧岩木町、旧相馬村が合併し、新たな弘前市になりました。

青森県の南西部、広大な津軽平野の南部に位置し、総面積524.12km²と県全体の5.87%を占めています。

東に奥羽山脈の八甲田連峰を望み、西に青森県最高峰の秀峰岩木山を有し、南には、秋田県にまたがり世界自然遺産に登録されている白神山地が連なり、山々に抱かれた平野部においては、白神山地に源を発し、津軽平野を縦断し十三湖を経て日本海へ注ぐ県内最大流域面積の一級河川岩木川が、約30kmにおよび緩やかに北流しています。

この岩木川には、平川、浅瀬石川などが合流し、流域の肥沃で広大な津軽平野は、県内屈指の穀倉地帯となっています。また、平野に連なる丘陵地帯には、基幹農産物であるりんご園地が広がっています。さらに、その地域を取り巻くように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれています。



※出典：弘前市都市計画マスタープランより

(2) 気候

アメダス弘前観測所（弘前市和田町）の観測データをみると、平成27年の年間平均気温は10.2℃となっています。夏場は最高気温が30℃以上まで上がりますが、冬場は-5.0℃以下まで下がります。概して夏が短く冬が長い、いわゆる日本海型気候に属していますが、三方を山に囲まれていることもあり、盆地のような内陸型気候に近く、全国有数の豪雪地帯といわれる青森県の中にあっては、比較的温暖な地域であり、降水量も年間を通して大きな変動はありません。

季節の移り変わりがはっきりし、桜や紅葉など四季折々の美しい津軽の自然を満喫できます。

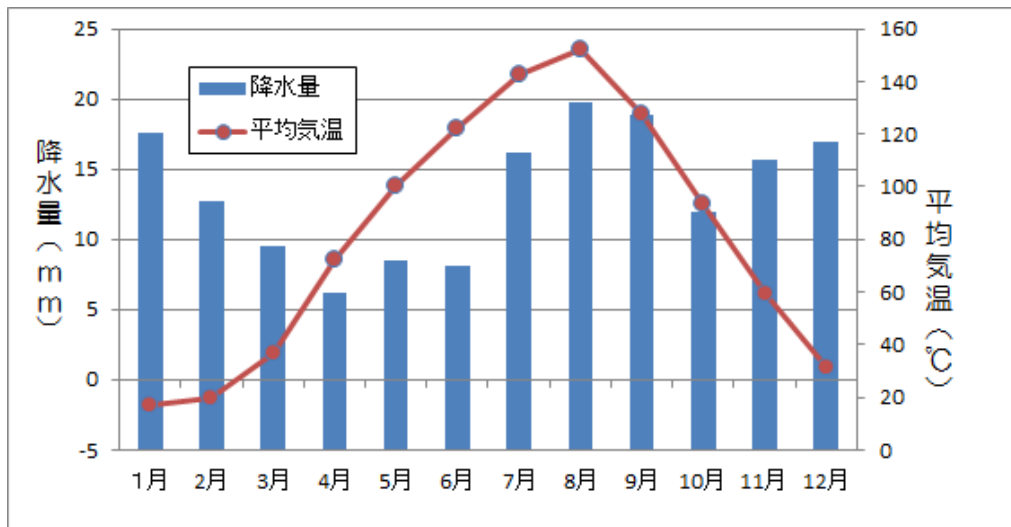


図1 平均気温と降水量（平成27年）

(3) 人口構造

総人口は減少が続き、平成27年では177,355人となっており、今後、減少の割合がさらに拡大する見通しです。

表1 人口の推移

(人)

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年
人口	194,967	190,506	183,844	177,355	169,106	160,094
増減数	-	△4,461	△6,662	△6,489	△8,249	△9,012
増減率	-	△2.29%	△3.50%	△3.53%	△4.65%	△5.33%

※ 平成27年度まで（実績値）は、各年度10月1日の住民基本台帳の数値。

（「一般廃棄物処理実態調査」（環境省）の総人口）

※ 平成28年度以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」の推計値における変化率を算出し適用（赤字は推計値）。

※ 増減数、増減率は5年ごとの数値。

人口構造の推移について、平成27年現在の人口を5歳階級別に見ると、男性は65歳から69歳の年齢層の人口が最も多く、女性は80歳以上の人口が最も多くなっています。5歳階級別の人口の構成により、将来における顕著な高齢者の増加と若年層の減少が予測されます。

年齢区分別人口構成比を見ると、老年人口（65歳以上）は増加傾向、生産年齢人口（15歳から64歳）、年少人口（15歳未満）はいずれも減少傾向で推移しています。平成27年現在、本市の老年人口の割合は29.3%であり、住民の4分の1以上が65歳以上となっています。

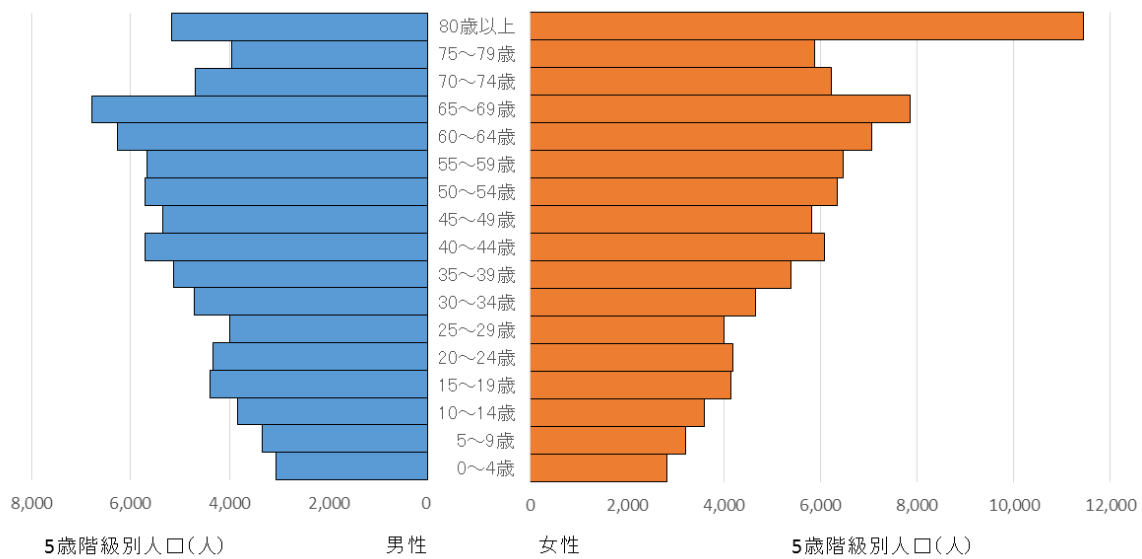


図2 人口構造 (平成27年10月現在)

表2 年齢3区分別人口

	年少人口 (15歳未満)		生産年齢人口 (15歳から64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	人口(人)	割合	人口(人)	割合	人口(人)	割合
平成22年	22,804	12.4%	114,567	62.3%	46,463	25.3%
平成23年	22,358	12.2%	113,951	62.3%	46,575	25.5%
平成24年	21,781	12.0%	112,434	61.9%	47,407	26.1%
平成25年	21,112	11.7%	110,750	61.3%	48,745	27.0%
平成26年	20,643	11.5%	108,556	60.6%	49,988	27.9%

※出典：住民基本台帳人口 (各年3月31日現在)

(4) 産業

「平成26年産果樹生産出荷統計」(農林水産省)によると、青森県はりんご生産量が468,000トン(平成26年度)と、全国のりんご生産量の約6割を占めています。弘前市は市町村別のりんご生産量日本一を誇る農業であり、平成18年産のりんご生産量は、176,600トンと、全国のりんご生産量の約2割、青森県の約4割を占めています(平成18年事業所・企業統計調査より)。

産業大分類別民営事業所及び従業者数(平成24年経済センサス活動調査及び平成21年経済センサス基礎調査より)によると、平成24年2月1日現在の弘前市の事業所数(総数)及び従業者数は、8,672事業所、77,818人で、前回調査(平成21年)と比べて、事業所数が972事業所の減少(増減率△10.1%)、従業者数が10,839人の減少(同△12.2%)となっています。このうち、民営事業所数は、8,169事業所、従業者数は77,818人となっており、前回に比べて、事業所数は890事業所の減少(増減率△9.8%)、従業者数は4,006人の減少(同△4.9%)となっています。

産業別事業数は、第1次産業、第2次産業、第3次産業のいずれも平成21年と比較して同程度の割合となっており、就業人口の割合は第2次産業で増加、第3次産業で減少と、青森県全体と同程度の割合となっています。

産業大分類別にみると、「卸売・小売業」が2,243事業所（構成比27.5%）で最も多く、次いで「宿泊業・飲食サービス業」1,234事業所（同15.1%）、「生活関連サービス業・娯楽業」の947事業所（同11.6%）となっており、これらの3産業で全体の約5割を占めています。以下、「医療・福祉」が705事業所（同8.6%）、「不動産業・物品賃貸業」が612事業所（同7.5%）、「建設業」が599事業所（同7.3%）と続いています。

従業者数は、「卸売・小売業」が18,627人（構成比23.9%）で最も多く、次いで医療、福祉」が12,648人（同16.3%）、「製造業」が9,546人（同12.3%）、「宿泊業・飲食サービス業」が7,472人（同9.6%）、「サービス業（他に分類されないもの）」が5,354人（同6.9%）、「建設業」が4,878人（同6.3%）となっています。平成21年調査と比べると、「鉱業・採石業・砂利採取業」が事業所数・従業者数ともにわずかに増加しているものの、その他の主要な産業では、事業所数・従業者数ともに軒並み減少しています。特に「サービス業（他に分類されないもの）」では事業所数・従業員数が非常に高い減少率を示しており、「卸売業・小売業」や「宿泊業・飲食サービス業」、「建設業」といった構成比が高い産業においても事業所数・従業者数の大幅な減少がみられます。

表3 産業大分類別民営事業所及び従業者数

産業大分類	事業所数				従業者数			
	実数 (事業所)	構成比 (%)	対21年増減		実数 (人)	構成比 (%)	対21年増減	
			実数(人)	率(%)			実数(人)	率(%)
卸売業・小売業	2,243	27.5	△260	△10.4	18,627	23.9	△1,578	△7.8
宿泊業・飲食サービス業	1,234	15.1	△218	△15.0	7,472	9.6	△606	△7.5
生活関連サービス業・ 娯楽業	947	11.6	△46	△4.6	4,183	5.4	△66	△1.6
医療・福祉	705	8.6	9	1.3	12,648	16.3	△333	△2.6
不動産業・物品賃貸業	612	7.5	△52	△7.8	1,428	1.8	△74	△4.9
建設業	599	7.3	△76	△11.3	4,878	6.3	△524	△9.7
サービス業(他に分類 されないもの)	416	5.1	△151	△26.6	5,354	6.9	△1,076	△16.7
製造業	402	4.9	△23	△5.4	9,546	12.3	168	1.8
教育・学習支援業	260	3.2	△10	△3.7	3,640	4.7	279	8.3
学術研究・専門・技術 サービス業	254	3.1	△23	△8.3	1,263	1.6	△116	△8.4
金融業・保険業	170	2.1	△21	△11.0	1,846	2.4	△236	△11.3
運輸業・郵便業	146	1.8	△11	△7.0	4,607	5.9	171	3.9
情報通信業	76	0.9	3	4.1	934	1.2	△1	△0.1
複合サービス事業	62	0.8	0	0.0	662	0.9	13	2.0
農業・林業	34	0.4	△12	△26.1	486	0.6	△51	△9.5
電気・ガス・熱供給・ 水道業	5	0.1	0	0.0	217	0.3	18	9.0
鉱業・採石業・砂利採 取業	3	0.0	1	50.0	26	0.0	6	30.0
漁業	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0
総数	8,169	100.0	△890	△9.8	77,818	100.0	△4,006	△4.9

出所：産業大分類別民営事業所及び従業者数

(平成24年経済センサス活動調査及び平成21年経済センサス基礎調査より)